平成27年度発達障害に関する教員の専門性向上事業　別紙様式２

呉市立横路中学校の取組

研究テーマ
論理的思考力の育成
～　生徒指導の三機能を生かした集団づくりを基盤にして　～

授業実践①（プラン）

◆第（２）学年（英語）科　単元名「Enjoy Sushi」
◆本時の目標

There is (are)～.　を含む文を使って自分の部屋にあるものについて聞き手に正しく伝える。

◆生徒の状況と，それをふまえた指導・支援のポイント

学級全体の状況
・素直で精神的にやや幼い生徒が多い。行事や，集団で活動することを楽しみにしている。担任の見ていないところでは羽目を外しやすい。

特別な支援が必要な生徒の状況
・教員や仲の良い生徒同士では，コミュニケーションが取れるが，集団の中では自分の思いや考えを伝えることは難しい。

指導・支援のポイント
・授業の初めと終わりをパターン化する。→　見通しがもてるようになる。
・視覚的教材を用い何をするかをやってみせる。→　やるべきことが分かる。
・課題のレベルを選択　→　自分にあったやり方を見つける。
・支援が必要な生徒を中心にていねいな机間指導を行う。

授業実践②実践の具体

（１）授業の流れをパターン化することで見通しをもたせる。

・授業の始め：曜日，日付，天気の確認
・授業の後半：基本文型をノートに練習する。
　①基本文型を写す。
　②日本語から英語に直す。

授業実践②実践の具体

（２）同じ課題でも難易度別にパターンを設けて，やり方を生徒に選ばせる。（自己決定）

例
　レベル１　ドリルに書いてある文を写す。
　レベル２　新しい文の決まりだけ自分で書き，その他は写す。
　レベル３　日本文を見て全文英語に直して書く。

授業実践②実践の具体

（３）個に応じた指導の工夫

・授業の流れを板書する。
・視覚的教材を用いてやることを示す。
・生徒のニーズに合わせて机間指導の回数を増やす。

授業実践③成果・課題

成果
・班単位の活動では、配慮が必要な生徒の順番を後半にし，他の生徒の発表を見る機会を与えたことにより全員が自分の部屋にあるものを伝えることができた。
・１人当たりの発表の回数を制限して，アクティビティを行うことで生徒間のサポートが増えた。
・振り返りの表現が具体的になった。

課題
・書くことに対する苦手意識を軽減する。
・生徒の自己肯定感や意欲を高める。

授業実践④今後の改善点

（１）正しく書く作業への移行
・英語の４領域の中で，今回は「話すこと」を扱ったが，生徒の苦手意識の高い「書くこと」への移行へ向けての授業の工夫・改善が必要である。
（スモールステップで苦手意識を取り除く等）

（２）生徒同士のペアや班での活動を増やす。
・教員からの支援よりも，生徒間のコミュニケーションを増やすことで支援の必要な生徒の意欲や自信は高まっていくと思われる。

普及・啓発①拠点教諭の取組

横路中学校区での小中合同研修
・専門性向上事業の研修で学んだ理論を在校生の事例に当てはめた実践報告
・特別支援教育に関する著書の紹介

I’m here

柘植雅義著→

普及・啓発②拠点教諭の取組

特別支援学級担任者研修（呉市）
・専門性向上事業の研修で学んだ理論を通常の学級の事例に当てはめた実践報告
・人的環境のUDに関する著書の紹介

←阿部利彦著

I’m here

普及・啓発③拠点校の取組

保護者懇談会等における啓発の取組
※特に意識して伝えたこと
・ほめること・待つことの重要性
・学校生活での具体的な成長の様子
・他の子と比べない。
・「長子だから」を理由にしない。
・どの生徒にもストレスはある。

今年度の成果・課題

	成　果	課　題
授業実践	支援の必要な生徒が，教師や生徒間のサポートによって課題を達成できた。	英文を言うことはできるが，書くことについては苦手意識が強いため今後の改善が必要。
普及・啓発	生徒実態に応じた指導の適切なタイミング等について共通の課題が確認できた。	ABC分析・人的環境のUD等の活用場面の具体的な校内事例を蓄積する。

次年度への展望

	取組の重点
授業実践	基本事項の定着を目指すとともに自己表現を中心とした，課題に積極的に取り組ませる。
普及・啓発	横路中学校区だけでなく，近隣の学校の特別支援教育に関する研修会において，ABC分析の活用・人的環境のUD化等の普及啓発に努める。